

|   |    |        |       |     |              |
|---|----|--------|-------|-----|--------------|
| かぶせ茶における摘採適期判定法   |    |        |       |     |              |
| 〔要約〕簡易で迅速な近赤外分光分析計により摘採時の生葉成分とかぶせ茶品質の関係を明らかにした結果、全窒素と中性デタージェント繊維の値が、かぶせ茶の摘採適期判定のために利用できることが明らかとなった。 |    |        |       |     |              |
| 三重県農業技術センター 茶業センター 製造担当   |    |        |       | 連絡先 | 05958-2-3125 |
| 部会名   | 茶業 | 専門栽培対象 | 工芸作物類 | 分類  | 研究           |

〔背景・ねらい〕

茶の摘採期の判定は、出開度や木化程度等により行われているが、かぶせ茶栽培においては、新芽の生育途中から遮光することによって独特の香気の発揚や色沢を向上させる栽培法であり被覆日数の影響を受けるため、従来の出開度等による摘採期の判定法では熟練を要する。

そこで、摘採時の生葉成分とかぶせ茶品質の関係を明らかにし、近年普及されつつある近赤外分析計を利用した化学成分値による、かぶせ茶の摘採適期判定法を確立する。

〔成果の内容・特徴〕

「やぶきた」を供試し、被覆開始は一般に直がけ栽培で行われている3、5葉期とした。また、化学分析用サンプルはうね頂上部を採取し、以下の成果を得た。

- ①荒茶品質は被覆16日後をピークに低下した。また、かぶせ茶の特徴である香気と色沢の合計値も被覆16日後をピークに低下した。(図1)
- ②近赤外分析計により生葉の中性デタージェント繊維(灰分を含む)及び全窒素を分析し、求めた2成分の比「中性デタージェント繊維/全窒素」(NDF/T-N)値は生育の経過にともない上昇する。(図1)
- ③生育途中の生葉成分を近赤外分析計により分析したNDF/T-N値が約6.0のとき、官能審査による審査評点が最も優れ、かぶせ茶の品質から見た摘採適期の目安となる。(図1)
- ④近赤外分析のための前処理は生葉をマイクロ波乾燥(30g,5分/1回)し、コーヒーマルにより粉碎(40秒)するため、サンプリングから測定まで15分程度でできる。(図2)

〔成果の活用面・留意点〕

・NDF/T-N値による摘採期の判定法は、直がけ栽培の「やぶきた」で一番茶のみに適用できる。

〔具体的データ〕

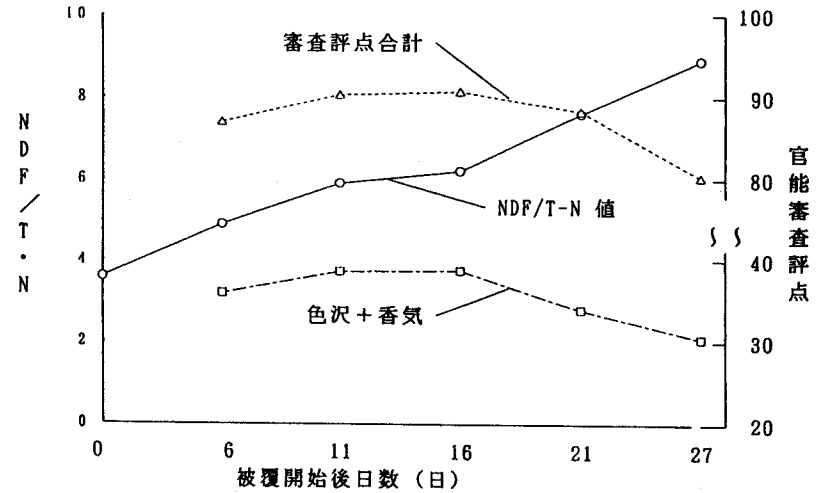


図1 NDF/T-N 値と荒茶品質

表1 茶芽の成分と出開度の変化

| 被覆日数(開葉数)       | 全窒素(乾物%) | NDF(乾物%) | 出開度(%) |
|-----------------|----------|----------|--------|
| 開始時(4/30)(3.5枚) | 5.3      | 19.3     | 27     |
| 6日後(4.0枚)       | 5.0      | 24.4     | 77     |
| 11日後(4.3枚)      | 4.7      | 27.7     | 80     |
| 16日後(4.5枚)      | 4.7      | 29.2     | 91     |
| 21日後(4.7枚)      | 4.3      | 32.7     | 95     |
| 27日後(4.9枚)      | 3.9      | 34.6     | 98     |

- ・全窒素及びNDFは近赤外分析値
- ・NDFは灰分を含む

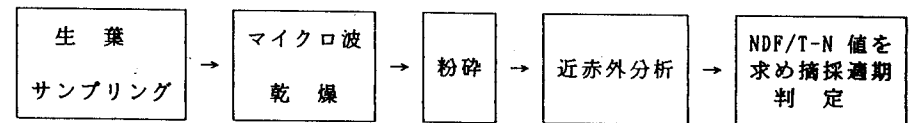


図3 摘採適期判定のためのフローチャート

〔その他〕

研究課題名：生葉の成分分析等を利用した生育診断技術の確立  
 予算区分：県単  
 研究期間：平成5年度(平成3～5年)  
 研究担当者：湊 裕史  
 発表論文等：なし